

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	945.75	2021/12/13
High	958.50	2021/12/13
Low	898.00	2021/12/16
Close	934.70	2021/12/17

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3449.00	2021/12/13
High	3499.00	2021/12/13
Low	3285.00	2021/12/16
Close	3416.00	2021/12/17

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	1766.00	2021/12/13
High	1855.00	2021/12/17
Low	1542.00	2021/12/15
Close	1784.00	2021/12/17

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	6432.00	2021/12/13
High	6749.00	2021/12/17
Low	5631.00	2021/12/15
Close	6511.00	2021/12/17



ニュースエクスプレス

パラジウム、パフォーマンス不調も ETFに資金流入

今年のパラジウムETFには投資家からネットで1億5000万ドル以上にもなる資金が集まったにも関わらず、「貴重」な金属としての地位にふさわしいパフォーマンスだったとは言えない。2022年3月先物(PAH2)は3分の1以上も価格が下がり、同時にETF12本の価格下落を招いて、平均マイナス25%の下落となった(レバレッジされたETFは除外)。

世界のパラジウムの半分以上は自動車触媒に使われており、排気ガスから炭化水素や一酸化炭素など有害ガスを取り除くのに役立っている。その他、パラジウムは宝飾品、ガラス産業でも使われ、さらに投資需要もある。

今年、他のコモディティーは大幅に価格が上がったにも関わらず、パラジウムは世界的な半導体不足による自動車産業の需要低迷のために不調だった。WPICによると今年のパラジウム市場は従来の予測を上回る大幅な余剰となり、2022年もそれは継続するとしている。プラチナに関しても今年第3四半期だけでも18.4トンの余剰で、少なくとも2013年来最大の四半期レベルの余剰となっている。

貿易収支の不均衡はパラジウム価格を直撃し、今年3月、52週間で最高3019ドルとなった価格は現在1585ドル(PAH2)となっている。だが、今後の需要増に賭ける投資家にとっては、Aberdeen Standard Physical Palladium Shares ETF (PALL)、WisdomTree Physical Palladium ETC (PHPD)、ZKB Palladium ETF AA CHF (ZPAL)などのパラジウムETFに検討の価値があるだろう。

<https://www.marketscreener.com/news/latest/Trackinsight-Palladium-ETFs-witness-positive-inflows-this-year-despite-performance-plunge--37334993/>

白金など年初来安値 トヨタEVシフト・米利上げが重荷

ニューヨーク先物市場で、自動車の排ガス浄化に使う貴金属が水準を切り下げている。15日に一時プラチナ(白金)は1トロイオンス886ドルと約1年1カ月ぶり、パラジウムは同1531ドルと約1年9カ月ぶりの安値をつけた。日本時間16日の時間外取引では反発したものの、安値圏で推移した。

トヨタ自動車は14日、電気自動車(EV)の世界販売目標を引き上げ、車種も拡充すると発表した。白金もパラジウムも、現物の用途で最も多いのが内燃機関車向けの排ガス浄化触媒だ。「ハイブリッド車(HV)が主力とみられていたトヨタが本気でEVに取り組むのは影響が大きい」(日本貴金属マーケット協会の池水雄一氏)。需要の先行きへの懸念が広がった。

白金は水素を電気分解で生成する際にも使う。燃料電池車(FCV)や水素技術が普及すれば需要が増えるとの見方がある。ただ「トヨタがEVに重点を置いた場合に、FCV向け需要が伸びない可能性がある」と意識された(ニッセイ基礎研究所の上野剛志氏)。

米連邦準備理事会(FRB)が金融引き締めに向けて動くことも追い打ちとなった。15日に開いた米連邦公開市場委員会(FOMC)では、量的緩和縮小の加速を決定し、2022年中に3回の利上げが示唆された。金利のつかない貴金属にとって利上げは逆風で、下げ幅が拡大した。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB163LY0W1A211C200000/>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- プラチナを触媒に使うPEM電解装置は1950年代に宇宙開発プログラムの一環として開発されたが、グリーン水素の需要が増える中で大きな注目を集めている。その背景には脱炭素化を進める技術が必要とされていること、再生可能電力の規模拡大とその製造コスト減に伴ってグリーン水素ビジネスに将来性が生まれてきていること、そしてPEM電解技術の発展などが挙げられる。詳しくはプラチナ豆知識「電解装置のプラチナ」(2021年12月8日)をご覧ください。
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2021/12/08>

- 2021年第三四半期のプラチナクォーターリーレポートができました。詳しくは下記のリンクからご覧ください。
<https://platinuminvestment.com/supply-and-demand/platinum-quarterly>



@wpicjapan

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。